

BBLウェビナー コメント資料

2020年9月30日

「インド太平洋地域秩序の動揺と日ASEAN関係」

RIETI コンサルティングフェロー /
経済産業省通商政策局通商交渉官
小野寺 修

インド太平洋地域秩序の動揺と日ASEAN関係（論点メモ）

- 歴史的視点（三つのリベリズム－①市場経済、②民主主義・人権、③国際協調）
- タイムライン
 - 目線（ASEAN政府・産業・国民）
 - －冷戦期（反共組織としてのアセアン、ベトナム戦争、中越戦争）・冷戦終結～2000年代
1980年代より 日米摩擦回避・アセアン投資（原料供給→繊維、電機、自動車等の生産拠点）
 - －中国のWTO加盟（2001）を機に 中国台頭（政治と経済の分離・韜光養晦・SC一体化）
 - －2010年代より 中国の経済プレゼンス拡大・軍備増強、欧米におけるリベリズム揺らぎ
 - －米中摩擦激化・コロナ対応（マスク・ワクチン外交）
- ASEAN諸国の伝統的な外交スタンス
 - －バランス外交 + ASEAN一体こそ強み → 平和・安定志向？
- 論点
 - －中国への期待・懸念・諦念（一帯一路、深まる中国への経済依存、南シナ海）
 - －米国への期待・懸念・諦念（「スーパーマン」・「自由の女神」の剥落、世界の警察への期待）
 - －日本への期待・懸念・諦念（罪人 → 経済スポンサー → 穏健な支援者・ balanサー）

 - －ASEANの求心力と遠心力
 - －個別アプローチと多国間アプローチ（政治体制 中国の位置づけ、陸続き・海洋、華僑Factor）
 - －日本の「理念」「規範」（Role model? Soft Power? 三つのリベリズム、報道の自由など）
 - －原料供給地 → 生産拠点 → 対等なパートナー？（ADX）
 - －米中依存度低減のための日本 - 豪、EU、英などとの連携のあり方